

二〇二六年三月二八日（参加者三名）

懐かしき夢の目覚めや春障子	よし女
川温む底ひより湧く泡はなに	むべ
矢の如き小魚の影水温む	澄子
歩き初むおかつぱ髪に春の風	よし女
一輪車乗れて笑顔や春の風	康子
亀の背にのる亀のゐて水ぬるむ	なつき

若鮎句会秀句・みのる選・二〇二六年四月五日